

仕事もライフも楽しんで！

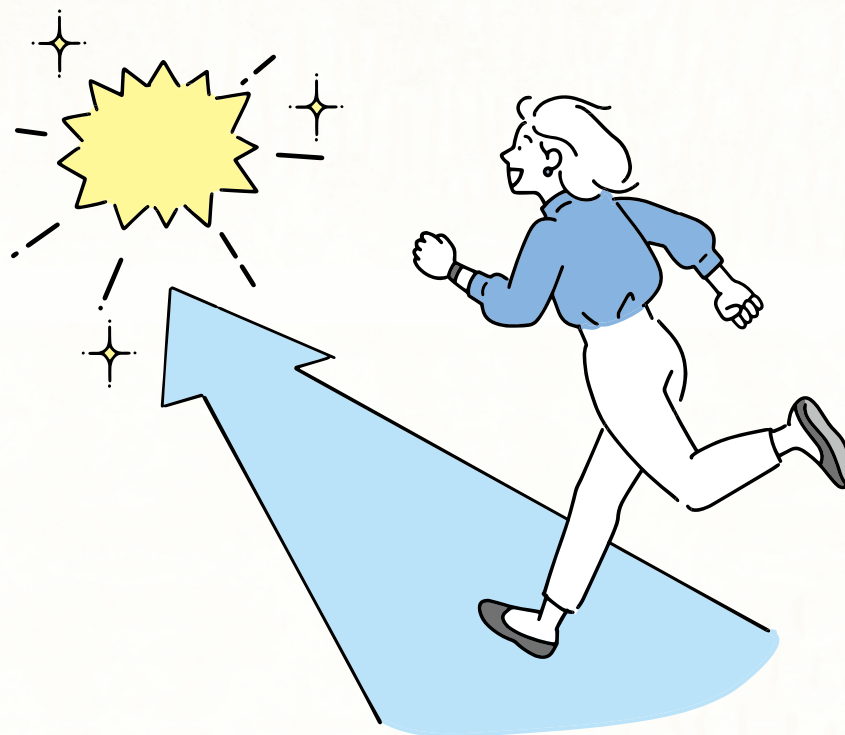
西田 絵美

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター皮膚科部長

最近、自身の専門分野についての原稿のほかに、自分の考えや意見を求められるような依頼をいただくことが増えました。昔から皮膚科の先生というと、(私の知るかぎりでは)ほかの科の先生と比べると多趣味で博学、いろいろなことに造詣が深い先生が多いという印象です。そんな先生方の中で、今回のお題である「ワークライフバランス」について、私がどんなことを書いたらみなさんに興味をもってもらえるのかを考えてみました。

医師になって約20年が経ち、自分の生活と仕事について振り返ってみると、医学部6年生、研修医のころが一番「ワークライフバランス」という言葉を意識していたような気がします。ワークライフバランスを考えて自分の選択する科を決めましょうというような雰囲気もあり、「結婚して子どもを産んだらどうなるかわからないから、ワークライフバランスのよい科を選択したほうがよいのか」などと悩んでいました。ですが実際にはそんなことよりも、仕事が楽しい、皮膚科が楽しいと思えたことが決め手になりました。

もともとは従順な性格であったように思いますが、いつの間にか経験値があがってきたためなのか、結構なあまのじゃくになっていて、自分の目でみて、感じて納得しないとダメなようです。八方美人と思われることもあるのですが、よく知っている人には頑固だといわれることもあります。幸いなことに私のメンターである先生方は、これをやれというふうないい方をするのではなく、私が興味をもつようなことや、今後のステップアップにつながることを上手く提案してくださったので、それにまんまと引っ掛かり「楽しそうだからやってみる！」という感じで仕事を続けてきました。その積み重ねがいまに至り、いろいろな経験ができ、たくさんの人たちに出会い、自分のキャリアが形成されてきたように思います。そしてライフのほうもそのおかげでいろいろな場所に知り合いができ、楽しんでいるという感じです。もちろん家族という存在もとても大切で、家族の健康面を気遣いその世話をしなくてはならない時期が誰しにもやってきます。そのときにいか



に自分のこれまで培った人間関係やリソースを使ってうまくやるかが大事なのではないかというのが最近、一番考えるところです。

皮膚科という仕事を楽しむ，職場の環境を楽しむ→ライフも楽しめる，というのが私の考えです。医師という曲がりなりにも人の命を預かる仕事をするプロフェッショナルである私たちは，もちろん患者さんを大事に，そして自分の周りの仲間を大事にして，自分ばかりと思わず，お互い様という心を常にもって歩むことが大事なのではないでしょうか。こちらが日常のことでイライラしていたり，体調が悪い中で診療をすれば患者さんにもそれが伝わります。もちろん腹が立つこともあります，必要な感情でもあるので，それが口に出せる環境をいかにつくっていくか。またそこで，たとえば患者さんのためにならないことであったり仲間を大事にしないような発言，行為があったときには，ちゃんと指摘しなければなりません。

医師という仕事は本当にタフだなと思うこともありますが，楽しみながら医師としていつまでも想像力をもち相手を思いやれる人でありたいと思います。